

＝平成二十七年党大会＝東京
来夏戦いへ決意新たに



皇紀 2675 年 12 月号 (230 号)
(平成 27 年) 毎月 1 日発行

発行人＝鈴木信行／編集人＝八幡建雄

年間購読料 2,000円

新風

 維新政党・新風本部

東京都中央区日本橋蛸殻町 1-6-4

第三カネタツビル 103

TEL 03-5642-0008

FAX 03-5642-0009

<http://www.shimpu.jpn.org/>
otayori@shimpu.jpn.org

全国から集まった同志
首都東京の会場埋める

維新政党・新風は十一月二十一日、東京都新宿区の主婦会館プラザエフで平成二十七年党大会を開催した。各地方本部からも代議員、黨員、党友、支持者ら幅広い同志が集結し、熱気あふれる大会となった。

示された。参議院比例代表選に挑戦するか、それを見送り大都市へ集中的に候補者を擁立する方針にするかは来年の早い時期に決定したいとした上で、出来れば大都市集中で法定得票数を獲得してから比例代

賞。党勢拡大賞が発表された。（受賞者は四面に掲載）決意表明には山梨県本部の篠崎まゆみ婦人部長と愛知県の宮川史子党員が立ち、今後の維新運動に賭ける熱い思いを語った。（全文は三面に掲載）

そして来年の参院選候補予定者が挨拶に立って会場から拍手を受けた。

第三部の懇親会では

来賓として鈴鹿国際
大学名誉教授の小林路
義先生、国体政治研究會
の中村信一郎先生から
新風への期待の言葉を
いただいた。また国際武
道大学理事の太平光洋
先生、生命医学綜合研究
所々長の忠宣勸先生も
佐賀県鳥栖市議會議員
の柴藤大輔先生の御発
声で乾杯となり、記念講
演講師の宮崎正弘先生、
中央区隊友会婦人部長
で今年の中央区議會議
員選挙候補者であった
白須夏さんから激励の
挨拶をいただいた。

そして敢闘賞と党勢

金子吉晴党本部選対委員長の先導で聖寿弥栄を奉唱し、党本部の小林常五郎組織委員長の閉会の辞で締めくくりとなった。

拡大賞受賞者らが登壇して今後の党活動にかける思いや、党勢拡大のコツなどを語らい、和氣藹々とした雰囲気で盛り上がった。全国から集

つた同憂同志が歓談

第二部の記念講演では宮崎正弘先生が「中国大破綻で日本はどうなる?」と題して、激動の大陸情勢につき熱弁をふるわれた。

（記・編集部）

(記・編集部)

しんぶうしゅう
新風驟雨

▼十一月十三日、パリで同時多発テロが発生し、少なくとも死者百二十人、負傷者三百五十人余の結果となった。ISの仕業だ。イスラム教徒が全員テロリストであるはずもないが、ISはイスラム教を基盤としてゐる。

▼イエスを神とするキリスト教と、イエスを単なる預言者（神の言葉を預かり、人に伝へる者）とするイスラム教は未来永劫に交はらない。「信じる者は皆救はれない」「信じる者は皆救はれない」は良いが、信仰無き者の皆殺しを実行して来たユダヤ教やキリスト教は御免だ。イスラム教はそれに比べ寛容のやうだが、我が日は寛容の神ながらの道には及ぶまい。信仰を強制するわけでもなく鉄の教義があるわけでもない神道は何でも受け入れる。

▼文化、文明は自然環境から生まれる。水に恵まれ、四季折々の自然の産物を感謝し効率良く暮らしを営んだ縄文時代は約一万五千年も時を刻んだ。縄文文化は育たない。寛容な文化は育たない。縄文時代と同時代のユーラシア大陸の遺跡からは大量の武器が発掘されるが、縄文土器の遺跡にはそれを見出せないらしい。

▼自分が何者であるか分からないのが多くの戦後日本人だ。天皇は国体の神が髓だとの言に対しては、いや天皇は民主主義の敵だと反発し、自衛権を国存立の安前提とする立場からは、同法案を戦争法案だと非難する。GHQ洗脳工作と日教組教育、恐るべし。

態にかついた嘆かわしい事象は、これを批判すれば議論を点、教師なら答案に赤点を、新風を大和の心だ、を我々社会の来年は参院選に逆境の中では参院選に選んで、頑張るしかない。

新風驟雨 しんぷうしゅう

挨拶に立つ鈴木代表

講師の宮崎正弘先生

党執行部

会場

懇親会の様子

中村信一郎先生

小林路義先生